

2017年度 会長あいさつ

第7回フォーラムに寄せて

日本重複障害教育研究会会長 猪瀬 義明

各会員の皆様、本会のホームページにアクセスの皆様、フォーラムに参加される皆様へ、第7回フォーラムの開催趣旨説明を兼ねて本年度のごあいさつ申し上げます。

本会は、会則の冒頭に「生命諸科学の研究と共生社会の構築をめざした実践的研究を行う。」とあるように、インクルーシブな共生社会の実現をめざしています。特に、ぎりぎりの生命を享受しているいわゆる「重度重複障害者」の存在を重視し、「一人でも欠けたらインクルーシブな社会ではない。」というスローガンを掲げ実践研究を推進しています。

インクルーシブという概念が登場してから10余年が経ちます。しかし、現状は、教育・福祉・医療・労働等の世界が、それぞれ分立して活動を進め、お互いの持ち分の発展・充実のみを考え実行していますから箱庭的状况に陥っています。何故そうってしまったか？それは、めざすべき共生社会を具体的に構想していないからと思われまます。いかにインクルーシブ教育システムが構築されても、障害者差別解消法が法制化されても、どのような共生社会が実現していくのか見えてこなければ、それは、絵に描いた餅のようなものです。

本会は、共生社会の構築をめざすため、第7回フォーラムのテーマを「共生社会の実現のために今、何ができるか？」としました。共生社会を実現するには、コミュニティーケアの構築が必要です。その具体的指標となるのが地域支援です。そこでサブテーマを～地域支援の最前線～としました。

フォーラムのスタイルは、①パネルディスカッション ②フリートークセッションです。

①パネルディスカッションには、地域支援の最前線で活躍しているお三方をお迎えいたしました。

○星 茂行氏（東京都葛飾区教育委員会事務局指導室学校教育支援担当係長）

葛飾区における教育的支援ネットワークの構築とその実践について語っていただきます。

○日高浩一氏（東京都立水元特別支援学校主幹教諭・特別支援教育コーディネーター）

葛飾区におけるスクールクラスター運動の取り組みと実践例の報告をしていただきます。

○奥野英子氏（元筑波大学大学院教授）

福祉関係の地域支援の最前線の取り組みと現状の課題への提言をお願いいたしました。

指定討論者として、次の方をお迎えいたしました。

○田中裕一氏（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官）

広角的視野から、地域支援の最前線の様子を聞き取り、指定討論をしていただきます。

（一般的にフォーラムでは、中央の方を招き基調講演という形でご講演をしていただきます。それを受けパネリストが提言するという形を取りますが、今回は、その逆の形を取ります。パネリストからの様々な提言を指定討論という形で、中央の方に吸い上げてもらう方法を取りました。）

パネルディスカッションのまとめとしての講評もお願いいたしました。

②フリートークセッション（カフェ的雰囲気）

参加者の中で、近接領域の方々がグルーピングして、分科会方式で行います。

各分科会の中に、本会会員がアシスタントとして入り、会の運営をサポートします。

話題提供を受けて、現在の取り組んでいること、直面している課題、困っていること、自由な発想等々、将に、フリーなトークセッションです。

地域支援の最前線では、現状の厳しさ、果敢に取り組む姿等リアルに伝わると良いと考えています。フリートークセッションでは、柔らかく、しなやかな話し合いの中から斬新な共生社会の像が浮かび上がってくることを期待しています。

以上のことが、本会の目標達成のための一助となることを願ってごあいさつといたします。